



自然体験講座「昆虫採集と標本作り」に参加した皆さん。  
水生植物園で採集した昆虫で標本作りに挑戦しました。

Vol.183

令和7年度9月号

## 第3回自然体験講座が開催されました

7月26日に第3回自然体験講座「昆虫採集と標本作り」が開催され、4組13名の親子が参加しました。午前中に行われた昆虫採集では、水生植物園で標本作りに使用する昆虫を採集。池の周りや木の枝に集まる蝶やトンボを捕まえようと、虫取り網を手に親子で奮闘し、いろいろな昆虫を採集することができました。

午後からは採集した昆虫の標本作りに挑戦。わくわくどきどき実験室実行委員会（仙台市）の皆さんから指導を受けながら、昆虫を1匹ずつ虫ピンで慎重に固定し、きれいな標本に仕上げていきました。出来上がった標本は、2週間の乾燥処理の後、参加者の皆さんに手渡されました。



虫ピンで慎重に固定し標本に仕上げました

※水生植物園での採集は通常は禁止しており、このプログラムでのみ採集しています。



高い枝にとまる昆虫も精一杯網を伸ばして捕獲しました

## いきいき学園登米・栗原校の皆さんが環境保全活動

いきいき学園登米・栗原校の皆さんが、水生植物園で、環境保全作業に取り組みました。草刈り機や手鎌を使ってカキツバタの生育場所を丁寧に刈払いました。カキツバタの群落は小さく、背の高い他の植物に負けやすいため、群落が大きくなるまで、周囲の草を取り除く必要があります。群落も少しずつですが増えており、来年の開花が楽しみになってきました。暑い中の作業、ありがとうございました。



保全活動を終えハスをバックに記念撮影



保全作業の様子



## 2022年の洪水からの復活

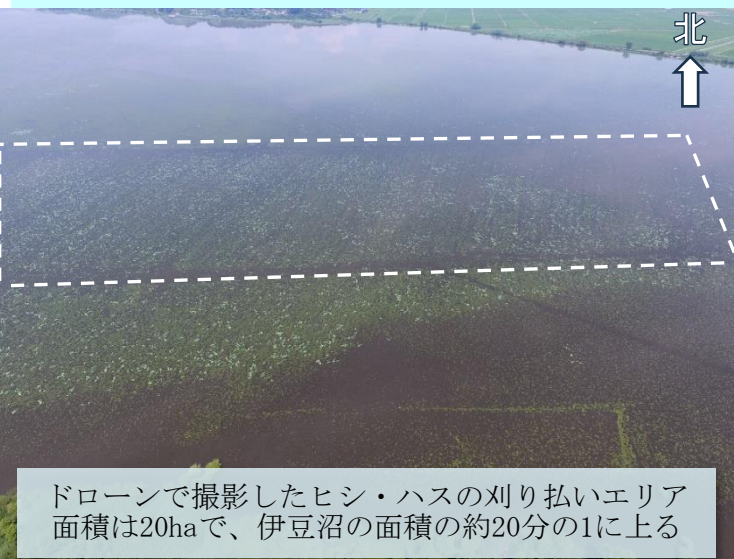
伊豆沼・内沼は、我が国有数のハス群落として有名ですが、2022年の洪水によって大きなダメージを受けてしまいました。その後も小規模の洪水が何度も発生しましたが、そのような試練を乗り越え伊豆沼のハス群落は復活を遂げつつあります。2025年8月25日現在では、伊豆沼の5割以上を覆うまでに回復し、美しい花を水面に咲かせています。



洪水被害から回復し湖面を覆うハス（8月25日撮影）



沼に浮かんだフナの死骸



ドローンで撮影したヒシ・ハスの刈り払いエリア面積は20haで、伊豆沼の面積の約20分の1に上る

## ヒシ・ハスは酸欠の原因にも

ハスはその美しい花が観光資源となり、その根（レンコン）は冬に渡来する渡り鳥の餌となるなど、この地域の人々との生き物に利用されています。しかしハスにはこのような正の側面のみならず、負の側面も存在しています。

伊豆沼・内沼では水中の酸素不足（酸欠）が問題で、夏の水面では、フナやコイなどの死骸が時々見られます。原因はヒシやハスの繁茂で、群落の中は酸素がほとんどありません。

## 適正な管理に向けて

しかし、湖面の水草を刈り取ると水中の酸素は数倍に増え、酸欠も改善されます。このため財団では、水生生物の生息地として重要な水域に限り、伊豆沼漁業協同組合と協力してヒシやハスの刈払いを進めています。

## 自然体験講座 参加者募集（ラムサール条約登録40周年記念特別プログラムあり）



申込受付は  
10月1日（水）開始

自然体験講座の  
ページはこちら  
のQRコードから



10月1日から伊豆沼・内沼自然体験講座「ガンの飛び立ち観察会」の参加申込を始めます。この講座は、早朝の伊豆沼でマガンの飛び立ちを観察する毎年好評の講座です。

今年は、伊豆沼での観察の後、南三陸町までバスで移動しコクガンを観察するコースに加え、ラムサール条約登録40周年記念として伊豆沼から蕪栗沼、化女沼を見学する特別プログラムも加わります。詳細や申込方法については、館内のチラシかホームページをご覧ください。

### 第7, 8回 ガンの飛び立ち観察会&ラムサール湿地見学ツアー

コース：伊豆沼→蕪栗沼→化女沼→伊豆沼（特別プログラム）

開催日：11月8日（土）、11月23日（日）

### 第9, 10回 ガンの飛び立ち観察会&コクガン観察会ツアー

コース：伊豆沼→南三陸町→伊豆沼

開催日：12月14日（日）、1月11日（日）

